

OVER the RAINBOW

大阪教育大学 副学長 赤木 登代

コロナ禍を越えて

— 教育における新たなグローバル化の展開

vol. **27・28**

巻頭言

TOPICS

- スタッフ紹介
- 新センター長就任のご挨拶
- 第11回グローバルセンターシンポジウム
- 地域の国際交流団体等による交流活動
- オンライン日本語教室
- 地域の皆さまによる留学生支援(お米寄贈)
- 大阪教育大学修学支援奨学金
- 山本国際学生宿舎RAイベント
- コロナ禍におけるセンターの取組み
- 2020年度後期修了留学生メッセージ
- 留学生コラム
- 卒業生からのメッセージ
- グローバルセンターニュース&More!
日本留学アワーズ6年連続受賞
交換留学体験記
留学生支援のお願い



大阪教育大学 副学長・学長補佐（国際交流担当） 赤木 登代

『コロナ禍を超えて — 教育における新たなグローバル化の展開』

2020年、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)がパンデミックを引き起こし、2021年を迎えた今も世界はその脅威にさらされ続けています。皮肉なことに、ウィルスの急速な拡散が「いかにグローバル化が進んでいるか」の証明となりました。

2020年4月から国際交流担当の副学長を拝命しましたが、これまでもグローバルセンター担当教員として大学の国際交流活動に従事してきました。特に、研究フィールドであるドイツとは、エアランゲン・ニュルンベルク大学、トリア大学、そしてライプツィヒ大学教育学部と、学術および学生交流の両方で双方向（受け入れ、派遣）の活発な交流を展開してきました。

とりわけ、ライプツィヒ大学教育学部とは2016年から2018年まで「エラスムス・プラス・プログラム(EUの主催する高等教育機関の交流を促進するプログラム)」のパートナーに選ばれ、研究者と学生の交流を通じて「教育の現代的課題」について共同研究を行いました。続いて、2017年には本学が文部科学省委託事業「国際協働プログラム」に採択され、教職大学院生5名を引率し、ライプツィヒ大学による「学校における多文化共生」をテーマとした研修プログラムに参加しました。さらに、この成果を継承すべく、2018年にも大阪市教育委員会との共催で10名の現職教員とともにライプツィヒで「大学連携海外派遣研修」を実施することができました。

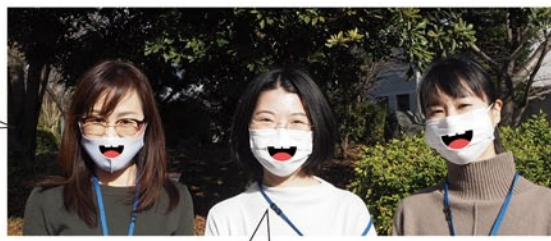
これらのプログラムから、今や「教育」は「ローカル」から「グローバル」な問題となっていることを痛感しました。それはPISAやTIMSSといった国際学力調査の結果が日本の教育政策に大きな影響を与えていることから明らかです。そして、今日の日本の学校が直面している重要な課題のひとつ「外国人児童・生徒の教育」も、移民・難民を多く受け入れている国々から早急に学ばなければなりません。

大学はコロナ禍によりオンライン教育を余儀なくされましたが、一方で対面授業との組み合わせによる新たな教育の可能性も見えてきました。それを踏まえ、国際交流においても「オンライン留学」を上手に導入し、未曾有の危機の中から生まれた「新たな交流」を構築していきたいと考えています。



》 》 スタッフ紹介

外国語学習支援ルーム(GLC)
ラーニングアドバイザー 山田 三知子
10月より外国語学習支援ルーム(GLC)でラーニングアドバイザーを務めています。20代半ば、「今しかチャンスはない!」と、イギリスの大学院に留学し、がむしゃらに勉強しました。その時の経験があらゆる点において私の人生を支えてくれています。語学力の習得に関して言えば、20代の頃に覚えた単語はよく覚えています、最近学んだ単語は悲しいかな、すぐに忘れてしまいます(笑)。大学在学中は語学学習に最適の時期だと思います。ぜひGLCを活用してください。



国際室国際交流係長 横川 奈月
2020年4月から国際交流係で働いています横川奈月です。この異動を機に10数年ぶりに英語の学習をはじめました。全く覚えていない文法用語にびっくりしつつ、いつか英語で話ができることを夢見ながら進めています。コロナ禍で世界は激変しましたが、大学の新たな「グローバル化」を目指して頑張りたいと思いますのでどうぞよろしくをお願いします。

国際室留学生係 山村 賛美
2020年4月より、国際室留学生係で勤務させて頂いています山村賛美です。自身の交換留学経験を通して、自分の好きなことを海外で学ぶこと、海外での出会いが、自分自身の人生をより豊かにしてくれるのだと信じています。留学生に寄り添いながら、大阪教育大学での留学生生活が楽しくなるように、サポートさせて頂きたいと思っています。コロナ禍の中、皆さんとなかなかお話できる機会がないのが残念ですが、お会いした時は是非お話ししましょう。

新センター長就任のご挨拶



グローバルセンター長 箱崎 雄子

これまで熱意をもって本学のグローバル化を進めてこられた高橋登前センター長の後任として、昨年2月に就任いたしました。何卒よろしくお願い致します。

さて、2020年度は、語学研修や交換留学を始め、日本文化研修などの行事や地域の方々との交流活動等が中止となり、コロナ禍における国際交流の在り方が問われた1年になりました。前例のない状況下、オンラインで開催した国際シンポジウムでは海外からの招聘における新たな可能性を見出し、留学説明会では協定校の担当者がオンラインで参加して、研修プログラム紹介が行われました。センターの教職員が一丸となり、コロナ禍でも国際交流活動を止めない工夫を盛り込むことで、これまでの活動を継続させることができました。

大学ではオンライン授業を取り入れ、私たち教員は変容を迫られました。海を越えイギリスでは、昨年6月にエリザベス女王(94)が、公務でZoomデビューを果たされたそうです。ここで、エリザベス女王が昨年12月25日に発表された恒例

のクリスマスのメッセージからの一節をご紹介します。

We continue to be inspired by the kindness of strangers, and draw comfort that even on the darkest nights, there is hope in the new dawn.

センターでも「新しい夜明け」を目指し、教職員の英知を結集して、本学の更なるグローバル化を推進していく所存です。引き続き、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

第11回 グローバルセンターシンポジウム

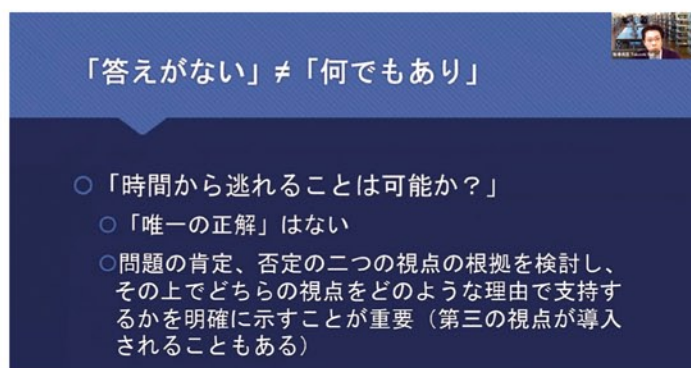
「フランスの論述教育を日本の教育に取り入れるには — 論述とテキスト読解 —」を開催

論述をテーマとする第11回グローバルセンターシンポジウムを、教育協働学科との共催で2020年11月11日(水)にzoomによるオンラインで開催しました。ゲストとして、本学の協定校であるリヨン第三大学ジャン=ピエール・ジロー教授、バカロレアの論述に関して優れた著書を持つ京都薬科大学の坂本尚志准教授を招聘し、講演をしていただきました。また、本学からは保健体育部門の林洋輔講師、グローバル教育部門の井上直子准教授が発表しました。オンラインということ、フランスのバカロレアが2021年から大きく変わるということもあり、本学教職員、学生に加え、学外からの登録者も多く、175名が参加しました。

シンポジウムでは、まず、ジロー教授によるフランスの論述の歴史、論述の書き方についての講演が字幕付きの録画で上映されました。坂本准教授は、哲学のバカロレアには「型」を学ぶことが重要であるということを立て、哲学の論述が何を求めているのか、来年度からどのように変わるのか、ということをお話されました。本学の林講師は、哲学を学識とする日本と、生き方とするフランス、という対比から、フランスのリセ[※]で用いられている教科書を紹介し、井上准教授は、リヨンからの留学生たちにセンター試験を解いてもらった際の意見をもとに、日本の国語教育の可能性をお話しました。

シンポジウムを全てオンラインで開催するという試みは初めてでしたが、坂本准教授に対する本学学生からの活発な質問もあり、アンケートでも「論述の歴史や方法を聞いてよかった」「フランスの論述教育の現状がよくわかった」「4つの発表がつながっていて、まとまりがあった」など、多くの意見が寄せられました。また今後のシンポジウムの形態について、海外からの招聘に関しても一つの可能性を開くものとなりました。

※リセ：フランスの後期中等教育機関で日本の高等学校に相当するもの。



地域の国際交流団体による交流活動

インターネットで日本語会話 グローバル香芝

コロナ禍の中、実際に対面での交流が叶わない1年でしたが、グローバル香芝の会員有志の皆様が、本学留学生のためにGoogle Meet*を利用して、日本語会話を楽しむ機会を作ってくださいました。

2020年11月後半から毎週木曜日の夕方に、無料で実施して頂きました。貴重な機会を提供して下さったグローバル香芝の皆様、有り難うございました。

以下は、参加した留学生の感想です。

教室以外日本語を話す機会がありませんので、グローバル香芝さんのオンライン日本語教室は非常にいい経験だと思います。また、様々な日本文化、オススメの観光地について勉強になっています。皆さんは優しく、元気なのでもう一回参加したいと思います。日本の文化について優しく教えて頂いてありがとうございます。楽しいので感謝しております。

(教員研修留学生 ルベン・ロドリゲス/メキシコ)

今年コロナの影響で、色々な日本の文化の経験できなくなって、残念でしたが、グローバル香芝さんによるオンライン日本語教室に参加できて、本当にいい経験だと思います。みなさんからいろいろな日本の文化や日本のことについて、紹介してくれて、とてもよかったです。色々日本の話を聞いて、とても勉強になりました。日本のお城、動物園、日本のお正月などのテーマで留学生の興味に合わせて、とても面白かったです。グローバル香芝の温かい気持ち、一生忘れません。心から本当にありがとうございました。

(教員研修留学生 ジーラー・ポーネン チャワッターナー/タイ)

*Google Meet: Googleが提供するビデオ通話アプリ



柏原市民の方から本学留学生へお米の支援 柏原市

柏原キャンパスが所在する柏原市から、本学留学生への支援として、2020年5月12日(火)にお米90kgが贈呈されました。

これは、柏原市民の方(匿名希望)から新型コロナウイルス感染症の影響で困難な状況にある留学生に対する支援の申し出があり、柏原市の仲介によって実現されたものです。

本学を代表し、地域連携担当の岡本幾子理事・副学長がお米を受領し、留学生への温かい支援に対しお礼を述べました。

頂いたお米は、柏原キャンパス内にある留学生宿舎と山本国際学生宿舎で生活している留学生69人に支援の経緯を伝えるとともに配布しました。留学生からは、「お米をいただき、新型コロナで困っている中、元気づけられました」「日本に来てお米が好きになりました。お米をありがとうございました」「日本語学習をがんばります。本当にありがとうございました」などお礼の言葉が寄せられました。



大阪教育大学『修学支援奨学金』の支給について

新型コロナウイルス感染症の影響により家計が急減(経済状況が急激に悪化)し、真に学費の支払いや生活費の支出が困難な私費外国人留学生を対象として、1人あたり10万円の奨学金を支給しました。

受給した留学生から、御礼の言葉が届いております。

『大阪教育大学修学支援奨学金寄附者の方々へ留学生からお礼の言葉』

この度、本学の修学支援奨学金をいただき、誠に感謝しております。このような難しい時期に、ご支援が大変助かりました。いつも自力で生活費を稼いでいるが、コロナで収入が大幅に減ってしまい、生活状況がかなり厳しくなりました。奨学金のおかげで、生活費が足りないというストレスも解消し、勉強にも集中できました。私は引き続き日本で生活し、進学したいです。このご恩は一生忘れなく、社会に貢献したく存じております。

(大学院教育学研究科国際文化専攻 史 雨(シウ))

支援奨学金をもらいました。本当にありがとうございました。

今年のコロナのため、親たちの収入が影響を受けてしまいました。私もアルバイトができなくなりました。元々の貯金はどんどん少なくなっています。今回の支援奨学金は本当に私を手伝ってくれました。日常生活を守れます。

本当にありがとうございました。そして、今のコロナがまだ続いているので、お体を気をつけてください。

(教育協働学科教育心理学専攻 翟 梓辰(タク シシン))

この度、大阪教育大学修学支援奨学金に採用していただき、誠にありがとうございます。コロナの影響により、アルバイトの収入がなくなり、大変な状態が続きました。支援奨学金に採用していただき、お金に関する心配なく、勉強に集中できるようになりました。皆様に心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

(教育協働学科グローバル教育専攻 王 佳昕(オウ カキン))

留学生×学生×職員で交流 山本国際学生宿舎

山本宿舎(大阪府八尾市)では、2020年11月28日(土)に入居者を対象にした「スポーツフェスティバル」を実施しました。この取組は、同一敷地内にある山本国際学生宿舎に入居する留学生を支援するRA(レジデント・アシスタント)*の学生が企画し、留学生と職員との交流を深めることを目的に開催されたものです。

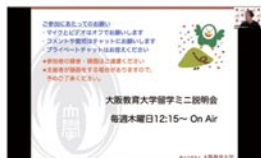
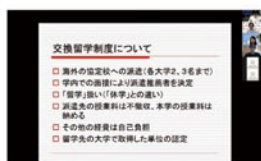
当日は、ミニサッカー、バドミントン、卓球、リレーなどのいろいろなスポーツを体験し、新しく入居した留学生も交流を楽しみました。ミニサッカーでは時折目を見張るテクニックを披露する場面も見られ、大きな歓声が上がっていました。留学生たちは、運動の後に学業や生活面での情報交換を行い、不安の解消の一助となる取組になりました。

*RA(レジデント・アシスタント): 留学生が安心して快適な寮生活を送ることができるよう、寮に住みながら留学生を支援する学生。



コロナ禍におけるグローバルセンターの新たな取り組み

オンラインによる留学説明会を実施



グローバルセンターでは、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策として、オンラインによる交換留学・短期留学に関する説明会を2020年7月15日(水)に実施しました。緊急事態宣言解除後もオンライン授業が主体となった2020年度前期、対面での説明会実施が困難な中、留学に関心を持つ学生30名以上が参加しました。

第一部では、グローバルセンター中山あおい教授による本学の交換留学制度に関する説明、フィンランドの協定校オーボ・アカデミー大学に留学した欧米言語文化専攻(現英語コミュニケーションコース)の金田和也さんによる発表が行われました。留学成功の秘訣として金田さんは「目的意識を強く持ち、留学目的を明確にすることが大切だと思う。」と話しました。又、台湾の協定校台湾師範大学に留学した芸術専攻(現芸術表現専攻)の油田珠子さんは事前にインタビューを行った動画で登場し、台湾での生活の様子や自身の専門である書道における台湾と日本の教授法の違いなどについて語りました。

第二部では、英語教育部門教員であり、グローバルセンターで学生の海外派遣を担当する橋本健一准教授から本学が実施する夏休み・春休みの短期海外研修が紹介され、そのひとつであるスイス・ジュネーブ大学の観察実習に参加した教職大学院の首藤紗果さんによる体験発表も行われました。又、オンライン開催ならではの試みとして、オーストラリア・ブリスベンから本学協定校であるクイーンズランド大学付属英語学校(ICTE-UQ)のIan Glidden氏が参加し、夏休み・春休みに実施しているクイーンズランド大学での語学研修及びコロナ禍における新たな様式であるオンライン研修プログラムについて紹介しました。

感染症防止対策として、なかなか対面での留学相談等が実施できない状況の中、ICTを活用し、留学や国際交流に関心を持つ学生への継続的な情報提供の可能性が開けた説明会となりました。

また、こういった経験を踏まえ、後期には「留学ミニ説明会シリーズ」と称して全10回にわたって、毎週木曜日のお昼休みにZoomを使ったオンライン留学説明会を実施しました。

この説明会シリーズは、1学期に1度対面で行っていた従来の説明会を、タイプや留学先地域に分け、より丁寧な情報提供を行うことを目的に、毎回その地域に詳しい教員や留学経験者をゲストに招くなど工夫を凝らした内容となりました。

オンラインでの開催だったことに加えて、お昼休みの実施だったこともあり、気軽に参加しやすいと学生からも非常に評判でした。

2021年度もまだまだ新型コロナウイルスとの関いは続きますが、グローバルセンターでは、今後もICTをうまく取り入れ、学生の国際交流活動を支援していきたいと考えています。

外国語学習支援ルーム(GLC)のオンラインプログラム

外国語学習支援ルーム(GLC)でも今年、様々な試みをオンラインで実施しました。

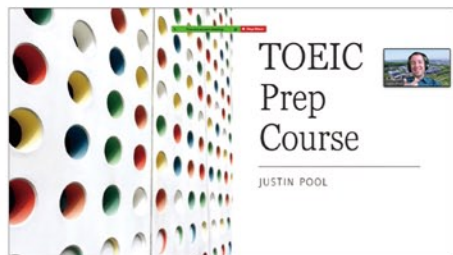
まず、お昼休みの人気プログラムであるランチタイムチャットを完全オンラインで実施しました。ネイティブ教員と、母国で教員を務める留学生(教員研修留学生)がホストを務めるプログラムは対面同様人気で、「通学しない日にも参加できる」「場所を選ばず参加できるのがいい」など好評でした。

次に、前期にはオンラインによるTOEIC対策講座、後期には英検二次対策講座をそれぞれ実施しました。

TOEIC対策講座では、本学英語教育部門教員であり、GLC担当でもあるジャスティン・プール特任講師が、傾向と対策を踏まえ、パート毎の注意点や特典アップの秘訣などを英語で解説しました。就職活動にも必要不可欠になりつつあるTOEICは学生の関心も高く、講座は募集開始後すぐ定員に達するなど大好評となりました。

後期に実施した英検二次対策講座では、日本人が苦手とするスピーキングに焦点を当て、ポイントやコツをマンツーマンの実践型レッスンで実施しました。こちらも丁寧な指導で試験に向けて自信がつけ、と大変好評でした。

GLCでも長く新型コロナウイルス感染症の影響に負けず、学生の自律学習を支援するため、オンラインによる様々なプログラムの考案、又窓口対応時における感染予防対策の徹底等を行っています。



zoom ONLINE Lunch Time Chat

新型コロナウイルス感染症対策のため
オンライン(ZOOM)で開催!!

2020年10月7日(水)スタート
12:15~12:45

グローバルセンター「国語教育部門」特任教員のJustin池田先生と母国で教員をしている留学生たちがチャットリーダーとなり、さまざまなテーマについて英語でチャット!

お申込みはこちら
https://forms.net/okuglc/calendar

外国語学習支援ルーム(GLC)
TEL 072-978-3977

英検 2020後期第2回 二次対策講座

英検二次対策講座「スピーキング」は、受験の要。英検2級はTOEFL、TOEICよりも、ポイントやコツが重要。練習することで自信がつけやすくなります。本講座では、マンツーマン実践型レッスンを開催いたします。授業料は無料です。

2021年2月10日(水)・17日(水)

時間	①13:00~13:25	②13:30~13:55
講師	1級・準1級 Justin Pool (英語教育特任)	2級・準2級 山崎 知子 (GLCコーディネーター)


申込受付 2月3日(水)

お申込みはこちら
https://forms.net/okuglc/calendar

外国語学習支援ルーム (GLC:Global Learning Community)
TEL 072-978-3977

2020年度 後期修了 留学生メッセージ

Thank you O.K.U

	氏名 OKENKWO STANLEY 出身 NIGERIAN
---	---

Coming to Japan has taught me good life lessons. My student life at OKU has broadened my horizon. Indeed, OKU is a place to be. I will not forget these memories in a hurry. Long live Oku! Long live Japan!!

	氏名 ヨサ 出身 インドネシア
---	--------------------------

OKU
家族のように
接してくれて
ありがとうございます
🇮🇩🇯🇵

	氏名 オーワッキー・ゾラーポソ 出身 71
---	--------------------------------

Thank you
OKUでは良い思い出が
たくさんできました。
**心が
ありがとう!**

	氏名 Ajay Pratap Singh 出身 INDIAN
---	---


Everything here in JAPAN, be the people, places & food made me love more, time & again. Japan will stay in my thoughts & behavior conclusively. I am elated to say Thank You to OKU for all the support & knowledge offered during my stay. ☺

	氏名 フェヒ 出身 インドネシア
---	---------------------------


Thank you for the wonderful experience! I will surely miss the view of the mountain from my window.
🇯🇵日本が大好き!!🇮🇩

	氏名 RIZKI GUS - RULYAN 出身 メキシコ
---	--

Gracias!
大教大ではできた思い出
一生忘れない
OKU
ありがとうございます!

	氏名 ソフィア・ストラバベリー 出身 スウェーデン
---	------------------------------------

OKUへ、
たくさん素敵な思い出
をありがとうございます!
皆さんのことは決して
忘れません。
Tack för allt!
🇸🇪

	氏名 Mohammed Kasim 出身 モロッコ
---	------------------------------------

Osaka Kyoi Ku University experience is the best professional journey that will stay in memory for ever! your kindness, thoughtfulness and patience is a big lesson that I will always treasure! Thank You all!

留学生コラム

~Message From OKU International Students~



張 斌 (チョウ ヒン) さん

楽しい時間は過ぎるのが早いです。4回生になって、そろそろ卒業する頃をむかえます。この4年間は本当に楽しかったです。私は大阪教育大学に対して、感謝のことばしか言えません。本当に大教大のことが好きです。多文化リテラシーコースの先生たちは優しいし、周りのクラスメイトも親切です。クラスの雰囲気も良く、みんなが真面目に勉強しているし、何か困ることがあったらすぐに助けてくれます。勉強以外でも、国際室の先生たちがいらっしやるので、大学生活で何か問題があったら相談できるし、サポートしてくれます。本当に国際室の先生たちに感謝いたします。優しい先生と親切なクラスメイトたちのおかげで、毎日大学に来るのが楽しいです。大学にいたら、心から落ち着きます。

今年はコロナの影響で、対面授業が出来なくなってしまって本当に残念だと思います。最後の一年はもっと大学に行きたかったのに、行けなかったです。残る時間は少ないですが、コロナが早く終わって対面授業が再開することを期待しています。ちなみに、私は学部を卒業してから本学の大学院に進学することになりました。あと2年間大教大に残ることができるので、これからの大学院の生活を楽しみにしています。



陳 高敏 (チン コウビン) さん

最初に大阪教育大学での留学生活での一番の思い出についてです。初めて大教大へ行った時、長く終わりが見えないエスカレーターに驚きました。現実と未来が繋がるような錯覚を覚えながらこの4年乗り続けてきました。このエスカレーターで友だちと授業や先生のことを楽しく話したり、悩みを解決したり、自分の出来事をシェアしたりしました。私の大教大生活はこのエスカレーターで始まったと言えます。

次に、大阪教育大学の好きなところについてです。大阪教育大学では、先生たちが留学生の辛さをよく理解してくださる上に、一人一人の違いも尊重しています。ある授業でゲームをした後の感想で、多くの方は留学生がよく分からないままに次の人に間違った情報を送ったと書いていましたが、その時先生は、これは留学生だけの問題ではなく、外国人のことをよく知らずに難しい言葉を使ったことも原因だと言いました。なかなかこの日本社会に入れないと感じていた私はその時涙が出そうになりました。先生は自らの行動でみんなにその優しさを伝えました。

最後に、大阪教育大学での留学体験をどのように将来に何役立てたいかについてです。

大教大のおかげで外国にルーツのある児童生徒の問題を初めて知りました。確かに日本へ来たばかりの時は友だちができず、孤独感や挫折感はずっと消えません。その生活の辛さは大人の我々すら我慢できないのに、子供たちの弱い体で背負わなければなりません。この問題を乗り越えた私は彼らの力になりたいと思います。

本学卒業生の今！



2013年度卒業
教養学科自然研究専攻
指導教員：中田 博保教授

陳 鋒 (チン ホウ)さん 中国出身

2014年3月に卒業した陳鋒です。入学した時、大教大での4年は長いと思いましたが、あっという間に過ぎました。大教大の先生方や職員の皆様には、学習のことも生活上のことも教えていただきました。特に留学生のための日本語の授業では、日本語だけでなく日本の風習なども少しずつ分かるようになり、日本のこともさらに理解できるようになりました。自分も母国の人々と日本人の方々がお互いに理解できるように頑張りたいと思いました。在学中国際交流フェスティバルに参加、出店をしたことがすごく印象的でした。各国の留学生が母国の食べ物、踊り、音楽などを通して国際的な交流をして、とても楽しかったです。私は親族まで連れて行って楽しみました。

大教大での貴重な4年間を経て、今は株式会社福和楽を経営しています。会社では大教大の同級生、後輩が何人も一緒に頑張っています。会社が運営している貿易、免税店、倉庫通関業とネット通販業務は近年のインバウンド需要の波に乗り発展してきました。国際交流の第一歩として、2019年許認可を受けて日本語学校を新規オープンすることができました。しかし、今は新型コロナの猛威が世界中に広がり、会社も多少の影響を受けています。厳しい状況ですが、大教大で学んだ「目に見えないものを発見する」という、新しい方向への調整がきっとできる

と確信しています。皆さんも学習と生活の両立を頑張ってくださいね！

編集部注：2015年度より、(株)福和楽様からは、留学生後援会(現：修学支援奨学金)にご寄付いただき、留学生への支援をいただいております。先輩からの支援は在校生にとって心強く、大きな励みとなっています。



2015年度卒業
国際文化専攻
日本・アジア文化研究コース
指導教員：石橋 紀俊教授

馬 苑聡 (マ エンソウ)さん 中国出身

皆さん、こんにちは。2016年卒の馬と申します。現在は専門学校で中国語講師として仕事をしております。

私は2010年に入学し、大学・大学院を通したつぶり6年間大阪教育大学で過ごしました。いろいろな思い出があり、とても有意義な留学生活を送ることができました。大学には感謝の気持ちしかありません。

私は入学当初から教師になることが夢でした。それを実現するために、大変なこと、うれしかったことなど、たくさんありましたが、大教大での6年間、本当に優しい先生方と一緒に頑張っている仲間たちがいてくれたからこそ、今教壇に立つことができたのだと思います。

そして在学中は常に様々なことを相談しました。勉強のことはもちろん、生活のことや進路について、数多くの先生方が親身に相談に乗ってくださいました。留学生生活は簡単ではありません。ですが、初心を忘れず、いかに自分の夢に向かってまっすぐに、素直に頑張れるかが最も重要だと思えます。そして簡単に諦めないこと！自分を信じること！何かあった時に、すぐに周りの先生方に相談すること！これが夢実現への道のりです。

最後に、学生時代にお世話になりました先生方へ感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。先生方、6年間本当にいろいろとありがとうございました！

私はこれから教師として恩返しをしていきます。より良い教育を学生に提供できるよう、精一杯頑張っていきます！



2017年度卒業
学校教育教員養成課程
英語教育専攻
指導教員：橋本 健一准教授

玉置 萌 (タマキ モエ)さん

大学1回生の夏、アメリカでの語学研修に参加しました。毎日が新鮮で楽しい、色々な国の友だちができるという、これまでに経験したことのない日々でした。同時に、言いたいことが英語で伝えられず、悔しい思いもしました。そこでもう一度留学したいと心に決め、大学3回生の夏、10か月間の交換留学で再びアメリカへ行きました。

交換留学では現地の学生と同じ授業を受けます。私は教育関係、言語学、リーダーシップ論などの授業を受けました。クラスにいる日本人は私だけ。困ったら自分から話しかけて助けてもらおうがありません。緊張しましたが、先生もクラスメイトも「モエは速い日本からアメリカに来て、頑張っている！すごいよ！」と言って助けてくれる、優しい人たちでした。せっかくアメリカに来たのだから、何があってもへこたれずに、乗り越えるよう、何でもやってみよう、と常に考えていました。

帰国後、「留学生生活1番の思い出は？」とよく聞かれました。色々思い浮かぶことはありましたが、たくさん友達でできたことが1番の思い出です。現地の学生以外にも、私と同じような世界各国からの留学生。たった10か月ですが、アメリカで出会った人たちとは今でもつながっています。帰国してからもお互いの国に会いに行くほど、親しくなりました。こんな経験も留学ならではの思い出です。

卒業後は小学校の教員をしています。英語専科として、全学年の英語の授業を担当した年もありました。私は留学を経験したことで、様々な国の友だちやクラスメイトの意見を聞き、自分の考え方や視野がいかに狭かったのかに気が付きました。英語専科として、英語を教えることはもちろんですが、世界の国の文化や考え方に目を向けて、授業をするのを意識しました。私がアメリカで過ごしていた日々のことや、海外

旅行での経験について話すと、子どもたちは目を輝かせながら話を聞きます。知らなかった海外の文化や生活のことを知ると、子どもたちは「自分たちは違うけれど、そういう考え方もあるのだな。」と気づきます。留学に行ったことで、私の英語の授業に対する考え方も変わりました。

留学中の私は「乗り越えられない壁はない。」と自分に言い聞かせていました。今の仕事をしていると、準備をしてもうまくいかないことや、反省することがたくさんあります。それでも前を向いていこうと思えるのは、留学中何があっても乗り越えられたのだから大丈夫、と思えるからです。

私にとって、語学研修へ臨んだこと、交換留学生になるために勉強したこと、10か月間アメリカへ行ったことは、自分を強くしてくれた経験でした。あの時「行ってみよう！」と決断して本当に良かったです。もし、これを読んでくれている大教生が、留学に行ってみようかな、と思っているのであれば、私は背中を押したいです。きっと一生物の経験になります。



日本留学アワーズを6年連続受賞

本学は、留学生に勧めたい大学・専門学校を選出する「日本留学アワーズ2020」で、西日本地区国立大学部門に入賞しました。

同賞は、日本留学を志す外国人留学生の環境整備及び日本留学全体の振興に貢献することを目的として設立され、全国の日本語学校の教職員らが投票し受賞校を決めるものです。9回目となった今回は、全国の日本語学校176校の投票により、部門別に50校が選出されました。本学は、「教育内容」「学生の満足度が高い」「学習面のサポート」などの点が評価され、国立大学部門が設置された2015年から6年連続の入賞となりました。

なお、今年は新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、表彰式はオンラインで行われました。

本アワーズは、海外から受け入れた私費留学生の方々を大学等への高等教育機関へ送り出してこられた日本語学校の教職員の方々が「自校の留学生に勧めたい進学先」という観点で投票された結果、受賞校が決定されます。数多くの大学の中から、教育大学としては唯一選出していただけましたこと、しかも6年連続で入賞できたことは、本学のグローバルセンター及び国際室の教職員にとって大きな喜びです。



交換留学体験記

池田 真悟(イケダ シンゴ)さん 2016年度入学
学校教育教員養成課程理科教育専攻(指導教員:種村雅子教授)

私はアメリカ、ノースカロライナ大学で10か月の交換留学を経験しました。留学先では、専門である教育学に加え、語学、SDGs、リーダーシップなどの授業を受講し、多様な観点から物事を捉えることが出来るようになりました。特に、教育学の授業においては現地の小学校を訪問する中で日本とアメリカの教育の違いを目の当たりにし、「教育」とは何か考え直す大きなきっかけとなりました。

授業以外にも、現地学生の日本語学習支援や日本の文化紹介、インターンシップなど学びの機会を探せば無限大です。普段の生活ですら全く新しいことの連続です。さらに、ルームメイトは海外からの留学生であることが多いため、常に多様な文化に触れていられました。私の場合は、ドイツ人、エチオピア人、アメリカ人、ブラジル人がルームメイトで非常に多国籍でした。

やはり、慣れない環境でストレスの溜まることもありましたが、特に今年はパンデミックの影響で二か月ほど早期



の帰国を余儀なくされました。私は、ストレスや困難に出会った時に何を学ぶかが重要だと思います。留学に困難はつきものですが、困難の数だけ学びも必ずついてきました。

留学を通して語学力や教育学の知識は身につきました。それと共に、多様な価値観や今までの常識が通用しないからこそ出会える新しい自分を見つけられるのも留学の魅力であると思います。その甲斐あって将来への可能性はぐんと広がりました。正直、今の自分が昔の自分と同一人物とは思えません。留学が全てとは思いませんし、人それぞれのやり方があっていいと思います。しかし、私にとっては新しい自分に出会い、新しい道を歩んでいく学びの一つとして留学を経験させてもらったことには本当に感謝しかありません。



編集後記

2020年は、世界中の人々が新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年となりました。グローバルセンターでは毎年8月と2月に広報誌Over the Rainbowを発行しておりますが、2020年前期はグローバルセンター事業のほとんどすべてが新型コロナウイルスの影響で中止となり、広報誌の発行も見送らざるを得ませんでした。しかし、長期化するウイズコロナ時代において、グローバルセンターも海外協定校や地域の支援者の皆様か

らのご支援・ご協力を受け、様々な取組みを実施してまいりました。そういったこの1年の新たな試みの記録として、夏に発行されるはずだった第27号と合わせ、第27・28合併号を発行する運びとなりました。この1年間、グローバルセンターの活動にご協力くださったすべての皆様に感謝申し上げます。

留学生支援のお願い

留学生後援会では修学支援奨学金の給付による留学生支援を行っております。ご賛同くださる皆さまは、下記によりご支援下さい。留学生支援のためのご寄附についても、税法上の優遇措置の適用を受けることができることとなりましたので、この機会にぜひご検討下さい。

学内教職員

- 一口500円/月、給与から天引き

学外支援者

- 振込…任意の金額を下記宛てにお振込下さい

三菱UFJ銀行 藤井寺支店

普通預金 口座番号: 5210211

名義: 大阪教育大学留学生後援会(オオサカキョウイクダイガクリュウガクセイコウエンカイ)

- 現金納入

寄附・納入方法

